

令和4年度 栗山町ケアラー支援推進計画評価結果

評価年月日 令和5年4月1日

1. ケアラー支援の必要性や知識を深める広報及び啓発活動

(1) ケアラーに関する情報発信

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
①ケアラーに関する理解を促進するため、町広報及びホームページ、SNSにケアラー支援に関する相談窓口や活動の状況などを掲載します。	町ホームページにケアラーに関するサイトの充実化を図った。また、町広報の連載ページとして「ケアラーの窓から」を継続し、情報発信を行った。また、社協では、ホームページ、フェイスブック等情報発信している。	○	→
②ケアラー支援に関するリーフレットを作成し、啓発活動に活用します。	社会福祉協議会において、ケアラー支援リーフレット及び広報誌「ケアラープレス」を発行し、啓発活動に活用した。	○	→
③ケアラー支援に関する学習会・シンポジウムを開催します。	ヤングケアラーをテーマとして、令和4年度家庭教育講演会を町、町教育委員会、社協共催で行った。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民全体の周知徹底にはあと一歩。進めるべき。 ・ どんどん発信していただきたいが、まだまだ認知度は低いです。この辺りを掘り下げる必要があります。 ・ 情報発信は色々していると思いますが相談窓口の認知度は低いと感じます。 ・ 町広報、社協ホームページなど幅広い年代に即した発信はできています。 ・ 町広報連載ページ「ケアラーの窓から」は継続が肝要と思われます。 ・ 町広報の連載はいつも拝読しています。 		「ケアラー」の言葉の認知度は高まりつつありますが、町民の皆様に言葉の意味や施策の内容の理解をより高める必要性があります。今後とも、町広報やホームページ、各種リーフレットなどの媒体や、出前講座などをより有効的	

<ul style="list-style-type: none"> ・町ホームページや町広報、社協のケアラープレスなど熱心に情報発信されております。ケアラープレスでは地域での小さな活動がケアラー支援につながることを伝えており、このような「福祉臭くない」情報発信が大切と思いました。今後は、ケアラー月間もしくはケアラー週間を設け、官民挙げての啓発が行われることに期待いたします。 ・今後もあらゆる機会を通して「ケアラー」についての情報発信の継続。 	<p>に活用しながら、周知活動を継続いたします。</p> <p>ケアラー月間は、ケアラーのイメージ・認知度を高める試みとして検討する予定です。</p>
<p>施策内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの利用方法に工夫が必要だと思えます。 ・ケアラー支援リーフレットはどんどん発行すべき。 	<p>リーフレットの利用方法は、相談時や各種イベントを含め、活用を検討したいと考えております。また、発行数や配布先も検討いたします。</p>
<p>施策内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に（ヤングケアラー）21名とは意外であった。学校での授業に取り入れては。 ・専門家の講演会は学習の機会になると思えます。 ・町内会等の小規模単位で行ってはどうか。 ・去年11月に行った家庭教育講演会島根大学宮本恭子教授の講演（ヤングケアラーの支援等について） 大変有意義でした。来年度も学習会等を希望します。 	<p>昨年度の家庭教育講演会では、「ヤングケアラー」をテーマにしました。今年度は、その内容をより深め、ステップアップできる講演会を検討しております。</p> <p>町内会や老人クラブ単位などでの学習会は、その周知と各団体等の要望に合わせて、講師派遣を継続いたします。</p>

(2)「仕事」と「介護」の両立支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
①企業及び従事者に「仕事」と「介護」の両立支援を理解してもらうため、栗山商工会議所と連携を図り企業セミナーを実施します。	企業セミナーは令和5年度開催に向け、その内容を協議中。なお、生活支援体制整備事業における「栗山町見守り・安心ネットワーク」事業による地域の見守りの輪を広げ、ケアラーを含めた支援が必要になる人への支援を商工会議所と連携して行っている。	△	→
②「仕事」と「介護」の両立支援に関する研修プログラムを作成します。	「仕事」と「介護」の両立支援に関するセミナーと関連付けがあるために現在、協議中。	△	→
③「仕事」と「介護」の両立支援ができる「働きやすい職場宣言」企業として、PRできる仕組みを検討します。	令和5年度実施に向けて協議中	△	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
<p>施策内容①～③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総論賛成、各論反対の可能性が大。介護をきっかけに離職して、再就職が困難な事例が隠れている可能性がある。 ① ・ 企業に支援してもらうためのセミナーは大いに必要だと思うので実施の実現に期待します。① ・ 是非実現をお願い致します。①～③まで同様 ・ 企業の反応はいかがなものか。①～③まで同様 ・ 地域の労働力が減少する中、ケアラーの支援を行い、離職につながることはない様、地域で「仕事」と「介護」の両立ができるサービスの提供体制を一層強化、進化する栗山町であってほしい。① ・ 会社など事業所には「介護休暇」などの取得だけでなく、事業所としてボランティア活動や社会貢献事業などを実施してもらい従業員の皆さんが地域や家族のことを考える機会にしてほしい。 ・ 企業への説明が不可欠③ 		<p>育児世代と介護世代が重なりダブルケアの状態になることもあることから、育児・介護の両立支援セミナーを開催する予定です。</p> <p>この問題は、企業の人的資源の問題や経営体力の問題にも繋がりますので重要なものと捉えており、周知・啓発活動を積極的に行うことで、その浸透を図ります。</p> <p>また、企業の地域貢献は、地域の福祉とケアラー支援にもつなが</p>	

	りますので、施策の推進に当たり、貴見を参考にさせていただきます。
--	----------------------------------

(3) 関係機関等との協力

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
①社会福祉協議会が町民向けに発行するケアラー通信を継続的に支援します。	社会福祉協議会にて、ケアラー通信を発行し、町広報に織り込む形で町内に周知している。	○	→
②関係機関と連携し、企業や学校、介護事業所等への出前講座を実施します。	出前講座などのリーフレットやプログラムについては、今後の検討課題になる。	○	→
③関係機関等が開催する啓発活動や研修会等を支援します。	町内会の任意のコミュニティ活動に参加し、ケアラー支援についての説明や、職員の派遣を行った。今後とも関連機関等の行うケアラーイベントについて協力する予定。	○	→
④教育委員会や学校と協力し、ヤングケアラーに関する講座を実施します。	令和5年度開催に向け協議中。なお、ヤングケアラーの実態アンケートに併せて、関連動画の視聴を各校に依頼した。	△	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容① ・継続も大事ですが、周知度合いの把握も必要ではないでしょうか。 ・ケアラーという言葉も含め、少しずつ浸透していると思います。 ・継続を希望します。		ケアラー通信を含めた周知媒体の浸透度については、今後とも把握に努めたいと考えております。	
施策内容② ・少しずつでも出前講座はした方が良くと思います。 ・末端までケアラーを認識してもらう事でよい。		出前講座は、新型コロナの状況を見ながら進めていく予定です。	

<p>施策内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模単位での支援も必要。 	<p>講話等の職員派遣を含めて支援を行う予定です。</p>
<p>施策内容④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談しても変わらない33.3%。悩みがないなどが問題です。 ・子どもたちの多くは、学校は勉強をする場所で、家庭の相談をすべき場所ではないと考えている。かつてヤングケアラーだった人たちが口をそろえて言うのは「家のことを学校に持ち込みたくなかった」ということばです。この点を掘り下げないと次に進まないと思います。 ・少しずつでも出前講座はした方が良いと思います。※再掲 ・繰り返しが必要ですね。 ・アンケートの信頼性に疑問有り。 ・学校では実態アンケートの結果を基に先生方と共通理解を図った。今後ヤングケアラー支援に係る研修の実施、丁寧な生徒理解、関係機関との連携、連絡体制の構築等の取組の充実を図る。 	<p>ヤングケアラーの支援では、当事者が「気づく」機会を作ること、関係者が「見守り」の中での必要時の支援が可能な体制づくりを進めていく予定です。</p> <p>また、ヤングケアラー実態調査は、実施による一定の効果があつたと捉えており、調査項目を再検討しつつ、今後も継続いたします。</p>

(4) 各専門職との情報共有

<p>施策内容</p>	<p>実施状況・今後の予定</p>	<p>事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)</p>	<p>方向性 →(継続) △(変更) - (終了)</p>
<p>①潜在するケアラーを把握するため、介護事業所連絡会議等を活用し、ケアラーの状況や支援策等の情報共有を図ります。</p>	<p>ケアラー支援に関するアンケート調査の実施及び実施結果の公表などを行った。いのちのバトンや有償ボランティア制度などケアラーに関する事業についての情報提供を行った。</p>	<p>○</p>	<p>→</p>

②各専門職、サービス提供従事者がケアラーに関する理解を深めるため、介護従事者技術研修を実施します。	本年度は実施せず。	△	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報共有、提供、その後の確認も必要だと思えます。 ・ 町広報にてアンケート実施結果等を掲載してはどうか。 ・ 町独自にケアラーの心身状況や悩みを早期に把握するケアラーアセスメントシートを作成し、連携会議などで情報を共有することが必要ではないか。 		<p>ケアラー支援での介護事業所との連携は必要不可欠ですので、今後とも情報の共有等を図ります。</p> <p>町広報では、ヤングケアラー実態調査の公表を行う予定です。</p> <p>ケアラーアセスメントは、その運用にあたり、様々な会議等の場で運用方法を説明いたします。</p>	
施策内容② <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識増、技術向上のためには実施するようにした方が良いと思えます。 ・ 企業側の理解を得るのが大変と思われる。 		<p>介護事業及びその関連する研修は、ケアラーとの関連付けが多いため、研修会は今後とも実施いたします。なお、ケアラー支援に当たっての企業の理解を図る上で、仕事と育児・介護の両立支援に関する企業セミナーを実施予定です。</p>	

施策項目（１）～（４）一括

評価（意見・要望）	施策の方向性
施策項目（１）～（４）一括 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や職場など多くの人達に説明や周知された活動は、とても評価されると思えます。 	<p>今後とも広報・啓発活動を継続いたします。</p>

2. ケアラー支援を担う人材の育成

(1) ボランティアの養成

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) -(終了)
①ケアラーに代わって被介護者を自宅で見守り・サポートができる体制を図るため、町民ボランティアを養成します。	令和4年6月にケアラーサポーター養成講座を実施し、傾聴に関する訪問活動をスタートした。	○	→
②ボランティアの能力開発を目的とした研修を開催します。	令和4年度未実施	△	→
③支援が必要な町民(ケアラー含む)の日常生活のサポートが行えるよう、支え手と受け手を繋ぐ仕組みとしてボランティアセンター機能を拡充します。	有償ボランティア制度の「ちょこっとボランティア」をスタート。支え手と受け手の繋ぐ調整を行っている。	○	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容① <ul style="list-style-type: none"> ・ケアラーサポーターが少なすぎると思います。 ・各町内会、老人クラブ、民生委員などにケアラー支援体制と条例の理解を深める活動を不断に継続したうえで成就すると思います。 ・サポーターの必要性も感じますし、増えていくと良いと思います。 ・訪問活動は必要と思います。 ・ケアラー支援は、支え手となる人材育成がポイントだと思いますので、5年度にはさらに進めていきましょう。 ・町が以前養成した認知症サポーター(町内1,000人?程度)にケアラー支援の情報を発信し地域や職場での活 		ケアラーサポーターの養成は、講座の開催を含めて今後とも実施する予定です。また、各町内会、老人クラブ、民生委員に対しても周知活動を行います。 認知症サポーターの活用例は他市町村でも行われているところでもあり、今後の施策の参考にさせ	

<p>動につなげてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアの育成を。 ・傾聴ボランティア「虹」をやっています。お手伝いできる機会があれば今後も協力致しますので声をおかけ下さい。 	<p>させていただきます。</p>
<p>施策内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いに実施すべき。 ・今後とも実施した方が良くと思います。 ・ボランティア養成には必要。 	<p>ケアラーサポーターのスキルアップは、定期的に報告会などを開催し、日頃の疑問点の解消や意見交換を行っています。</p>
<p>施策内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアの存在は大切だと思うので発展していくと良いと思います。 ・支援が必要な町民との支え合いは肝要と思います。 	<p>「ちょこっとボランティア」のボランティア養成、活動の周知及び利用調整は今後とも継続いたします。</p>
<p>施策内容①～③一括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴ボランティア「虹」をやっています。お手伝いできる機会があれば今後も協力致しますので声をおかけ下さい。 	<p>必要時に、声をかけさせていただきます</p>

(2) 北海道介護福祉学校との連携

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
講師派遣等の技術的支援や人材養成の研修プログラムの開発など、北海道介護福祉学校と連携を図ります。	ケアラーズカフェ「サンタの笑顔」にて学生カフェ（令和4年10月・11月）を継続している。また、タブレット講座においても、協力している。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
<p>施策内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生にとってもサンタ利用者にも好反応を感じますので、継続していくことを願います。 ・介護学生との連携は必要ですし、学生も勉強になると思います。 		<p>北海道介護福祉学校とは、様々な活動で連携する予定です。また、学校の授業にケアラー支援の内容</p>	

- ・学校との連携の究極の目的は、介護福祉士養成のカリキュラムにケアラー支援の必要性を採用してもらうことであると思うので、SNSなどで情報発信してほしい。
- ・北海道介護福祉学校との連携を継続することで人材育成につながっていく。

を取り入れているため、その継続を依頼いたします。